

平成30年度 事業報告書

大慈ほまれ幼保連携型認定こども園

1. <基本方針>

- ①保育指針や幼保連携型認定こども園の教育・保育要領の内容を遵守し、家庭的な雰囲気の中で、教育・保育目標に向かってみんなで協力して保育を行う。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③安全を第一に考え、子どもが安心して過ごせるようにする。

2. <平成30年度報告>

- ①地域に開かれたこども園になるよう地域交流・信頼関係を深める
→近くの公立の保育所や区の5歳児交流会、リハビリステーション専門学院との交流実施
湊町公園に行く途中、お店の方との常に挨拶の交わし合いをした。
- ②理念をよく理解し、子どもや保護者に寄り添い、信頼関係を築き共に子育てをする。
→情報を発信したり、相談を受けたり、積極的に声を掛ける機会を作った。何かあった時は即日対応を常に意識し、より良い関係に努めた。
- ③運動遊びや律動を全員で行い、子どもの体力作りを強化し保育力を高め合う。
→子どもが楽しんで取り組み、総合的に成長を促す→体力作りでサーキット遊びや律動を決まった時間や決まった日に行い、積み重ねを強化した。朝の運動遊びを見直した総合遊具が入ったことでより一層体力作りに力を入れる。
- ④資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
→・職員会議やミーティング後に研修や伝達講習を行った。教育・保育課程を見直し、書類の書き方、気になる子どもの対応や言葉の掛け方を検討した。
・総合遊具が設置されたことで、遊び方や約束事などを検討した。
・6月28日、8月28日4園合同で、「子どもの主体性を伸ばす」研修を行った。
11月23日、4園合同で、「保護者対応」について研修を行った。
- ⑤人材確保・定着に努める。
→神戸市就職フェア・兵庫県就職フェア・神戸市バスツアーに参加し、確保に努めた。
- ⑥大慈あい小規模保育園との連携を図り。豊かな保育を行えるようにする。
→連携を深め、家庭的な雰囲気の中で安心・安全な保育を進められるようにした。
- ⑦地域の子育て家庭の支援を積極的に行うと共に一時保育も充実させる
→子育てサロンには在園児にも積極的に呼びかけた。一時保育もできる限り受け入れた
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全確保に努める
→ヒヤリハットを多く出し、危機管理意識を高めていくようにした。
- ⑨特色・事業内容の視覚化を進める
→園の様子が分かるよう玄関にポスターを貼ったり、園だよりを地域に配布した。

3. <地域貢献事業報告>

- ・6月 おたのしみ会
- ・8月 プール遊び、夏祭り、大慈こども園の地蔵盆
- ・11月 おたのしみ会
- ・1月 おもちつき

- ・毎月 基本第2土曜日 子育てサロン開催

4. <修繕・購入報告>

総合遊具を購入（3階に設置）

5. <大慈あい小規模保育園との連携>

- ・大慈あい小規模保育園の園児も、大慈ほまれこども園での土曜日の保育やお誕生日会にも慣れた。2歳児は2月から1号認定で来る子どもは大慈ほまれこども園で保育をした。

6. <健康診断・衛生報告>

内 容	実地日（回数）	業者等
健康診断	6月・10月	浪方医院
眼科健診	10月	中堀眼科医院
歯科健診	6月・10月	太田歯科医院
耳鼻科健診	5月	野村耳鼻科医院
尿検査	5月	兵庫県予防医学協会
調理室の消毒	毎月（1回以上）	サニックス株式会社
グリストラップ清掃	年5回	アーテックサーキュレーション

7. <行事報告>

年間行事

月	行事名
4月	入園式
5月	クラス懇談会 5歳児ひょうごこども園といちご狩り お楽しみ会
6月	お楽しみ会 中央区5歳児交流 トライやるウィーク 実習生受け入れ
7月	七夕祭り プール・水遊び遊び開始 リハビリ専門学院との交流
8月	夏まつり（同園会含む） ワークキャンプ受け入れ
9月	お泊り保育（5歳児）
10月	運動会 遠足 中央区5歳児交流 おいもパーティー
11月	作品展 お楽しみ会 保育参観ウィーク
12月	音楽会 クリスマス会
1月	おもちつき 六甲山そり遊び遠足（法人内の5歳児と合同）
2月	豆まき よい子の集い
③月	生活発表会 お別れ遠足 お別れ会 卒園式

月間行事（月1回）

- ・お誕生日会 子育て支援事業 防災訓練 防犯訓練 発育測定

その他

- ・事故対応訓練（SIDS、プール事故、アレルギー対応、痙攣対応）
- ・消火器、火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消火訓練
- ・警察による交通安全教室、防犯訓練 年1回

8. ≪平成30年度在籍児一覧表≫

() は1号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9	12	13	17(5)	17(5)	17(5)	85(15)	118%
5月	9	12	13	17(5)	17(5)	17(5)	85(15)	118%
6月	9	12	13	17(5)	17(5)	17(5)	85(15)	118%
7月	9	12	13	17(5)	17(5)	17(5)	85(15)	118%
8月	9	12	13	17(5)	17(5)	17(5)	85(15)	118%
9月	9	12	13	17(5)	17(5)	18(5)	85(15)	118%
10月	8	12	13	17(5)	17(5)	18(5)	85(15)	118%
11月	10	12	13	17(5)	17(5)	18(5)	87(15)	118%
12月	10	12	13	17(5)	17(5)	18(5)	87(15)	120%
1月	10	12	13	17(5)	17(5)	18(5)	87(15)	120%
2月	10	12	13	17(5)	16(5)	18(5)	86(15)	119%
3月	10	12	13	17(5)	16(5)	18(5)	86(15)	119%
合計	112	144	156	204(60)	202(60)	211(60)	1028(180)	119%

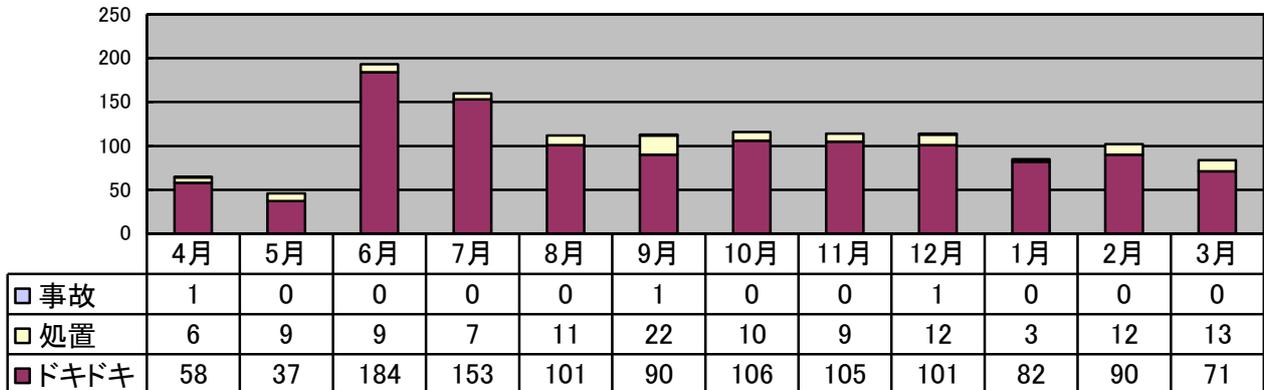
9. ≪リスクマネジメント報告≫

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する

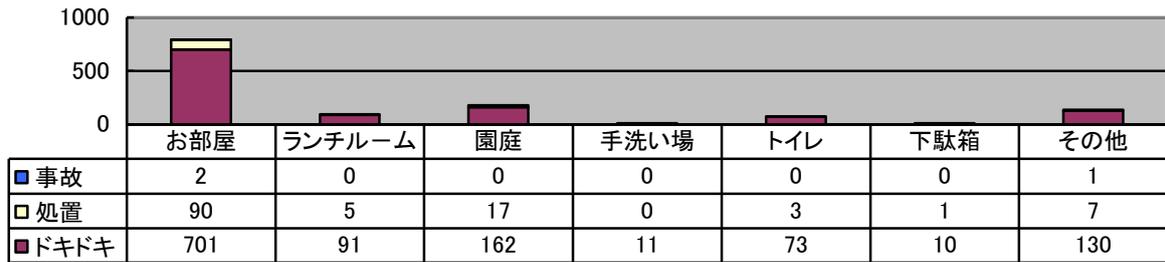
平成29年度					平成三〇年度				
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置
	1315件	7件	1220件	88件		1269件	3件	1178件	88件

平成28年度 634件 (事故 9件 ドキドキ481件 処置 144件)
 平成27年度 642件 (事故 3件 ドキドキ440件 処置 199件)

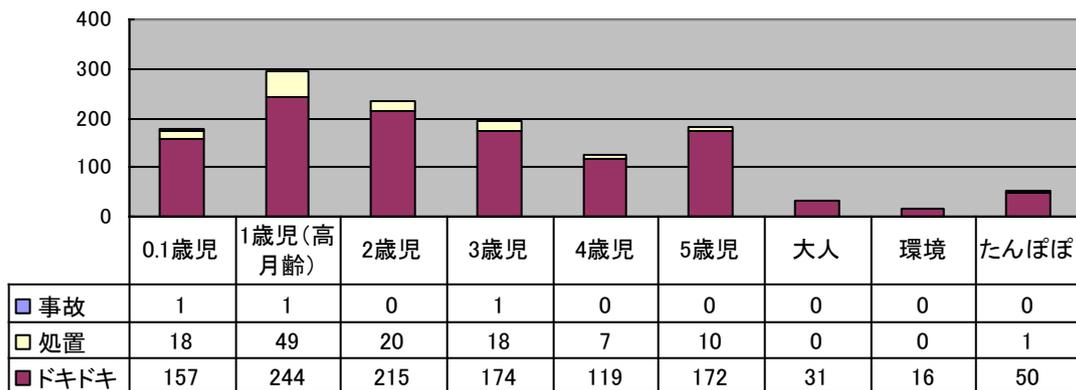
①月別発生件数



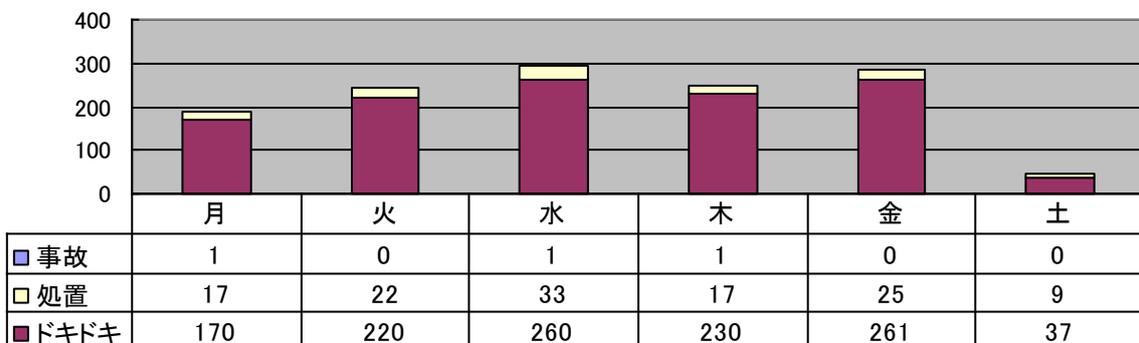
②場所別件数



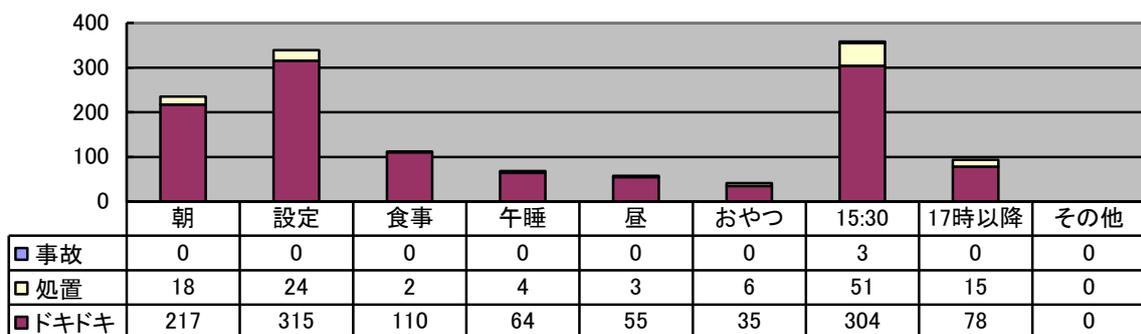
③クラス別発生件数



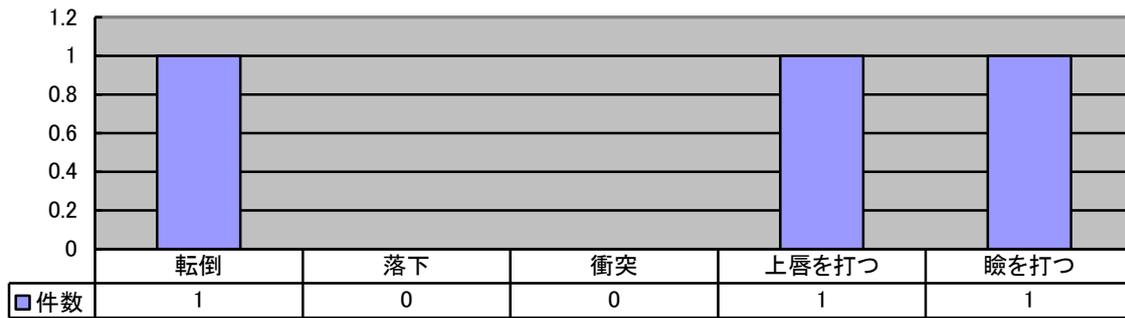
④曜日別発生件数



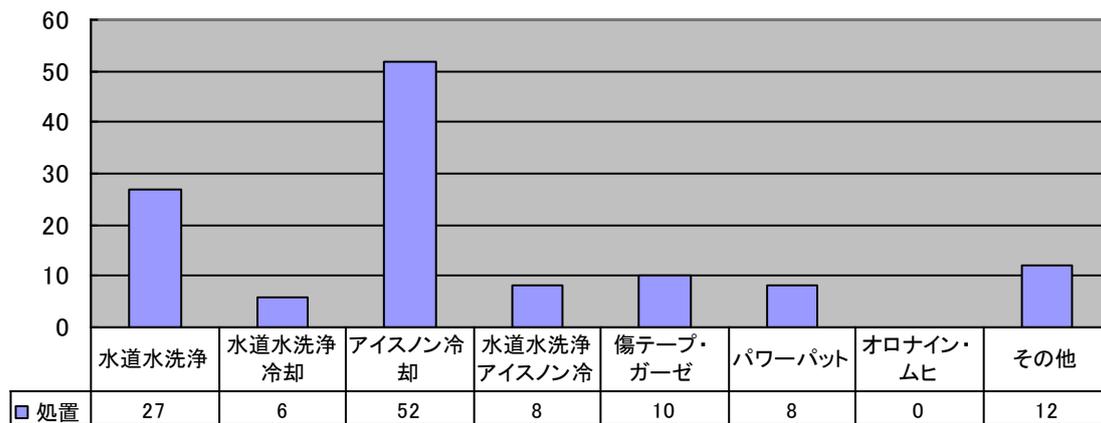
⑤時間帯別発生件数



⑥事故発生内容 3件（0歳児・1歳児・3歳児）



⑦処置内容



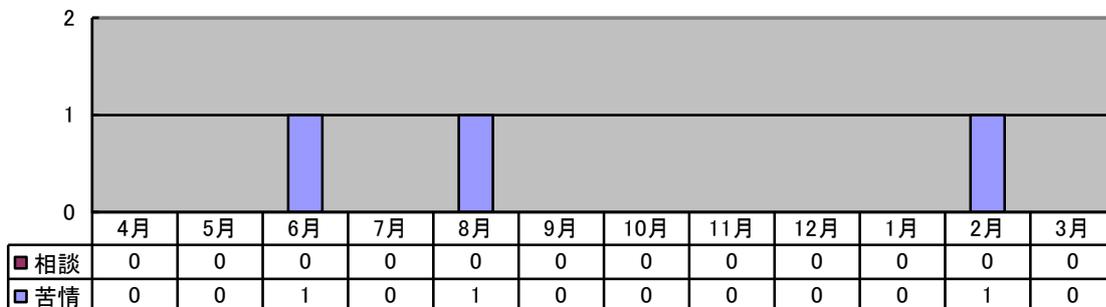
⑧まとめ

乳児の噛みつき、友だちとの関わりの中で多く出ている。些細なことでも情報を共有し、わりから、噛み付き、引っかきの行動が多くなったので、未然に防げるように必ず付くようにし、仲立ちをしながら遊ばせる。

10. << 苦情・相談結果報告 >>

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

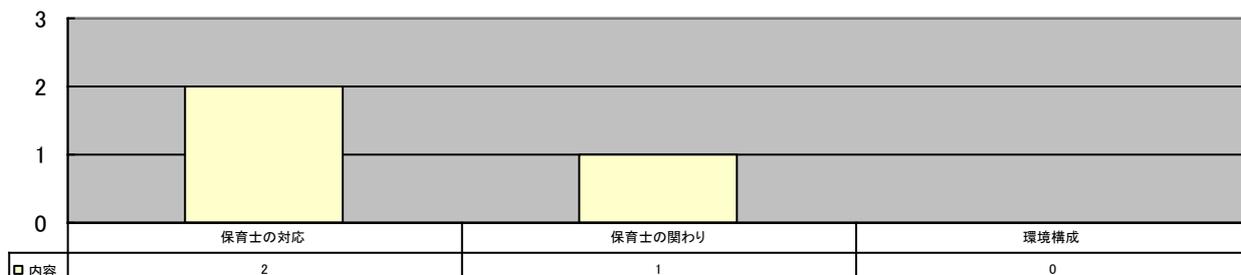
○報告件数・・・3件



要望分類



主な内容



○まとめ

- ・新しいクラス（1歳児）になってから続いて3回噛まれたことについて不安を感じているとのことで改善依頼があった。職員で危機管理について再度確認し合った。一人一人危機管理意識を持って対応できるよう、噛む子どもの傍に必ず職員が付くことを徹底し、一緒に遊びながら見守る。
- ・8月24日（金）リフレッシュ保育を希望していたが警報が出た為、仕事が休みになった方は家庭で過ごして頂くことになった。展示中の写真を最終日の24日に見る予定にしていたが、写真を見るために園に行くのはおかしい、1日展示期間を伸ばしてほしいと電話で依頼があった。今回は特別に1日伸ばしますと伝え、翌日お迎えの時に今日は特別ですのどと再度伝えた言葉が前日から引っ掛かっていたとのこと。対応した職員と30分ほど話をしたが、納得した状態でなく帰った様子。次の日お迎え時園長が話を聞く。
今回のような警報が出ている場合は伸ばすことを伝えたが、1週間展示しているのので、できるだけ早めに見ていただくようにも伝えた。おたよりでも写真の展示期間等についても載せるようにした。
- ・屋上でサッカーボールで遊んでいる時に本児が持っていたボールを他児が下から蹴り下駄が目の下に当たった。お迎え時に状態を伝えたが、納得がいかず、手紙をいただく。内容から職員の伝え方が悪かった様子。小さな怪我であっても主幹保育教諭、副園長、園長に伝えること。基本の報・連・相をいつも頭に置いて仕事をする。傷がなくてもトラブルがあったことは、コミュニケーションを取る意味でも様子を必ず伝えることと言いつつも気を付けることを職員と意思統一した。

1.1.《総括》

5年が経ち、もう一度職員全員で保育を見直し、人数も少ない特色を活かし、「みんなでみんなを育てる大家族」を意識して一人一人に寄り添って丁寧にかかわり、より良い信頼関係が築けるよう、コミュニケーション能力を高める。また何か起こった場合は即日対応を心がけることを周知徹底した。

ここ数年で教育が変化し、主体性を伸ばすことがとても重要になっている。園でもよく子どもたちを観察し、また、各自で受けた研修の内容を基に実践したことを話し合い、

自ら行動できるよう環境を整え、意欲に繋げたい。

また、体幹が弱い子ども増え、園でも体力をつけるため、毎朝サーキットや律動をして体力増進に努めている。総合遊具が設置されたことにより、使い方や流れや約束事を職員全員で話し合い、よりいっそう体力がますように積み重ねを大事にしていきたい。